

講座名	【選択必修】今日の学校改革の要諦と教育課程の 創造的編成の課題		
開講日	平成 28 年 8 月 5 日（予備日 8 月 7 日）		
時間数	6 時間	講座の形態	講義
受講予定者数	30 名	主な受講対象	小・中学校教諭
項目	<ul style="list-style-type: none"> ・法令改正及び国の審議会の状況等 ・学習指導要領の改訂の動向 	細目	法令改正、国の審議会の状況等 総則の趣旨の理解 意欲を喚起する学習指導
講座の到達目標	2000 年代を中心に教育に係わる法令の動向を探ると共に国の審議会レベルの論点を概観することで学校改革の要諦を理解する。その上で、教育課程の基準を示す学習指導要領の性格を理解し、子どもの学びを保障するための教育課程のあり方と教師の指導性・共同性の重要な役割を実践的に理解する。		
講座の概要	教育基本法、学校教育法等の諸法令改正の要点を考察し、「脱ゆとり教育」以後の学校改革に係わる国の審議会レベルの論点を概観したうえで、学校改革の要諦を主体的に認識するために、近年の教育課程改訂の動向、並びに 2016 年度改訂方針とされる「主体的な判断」「議論を通じて力を合わせること」「新たな価値の創造」の 3 課題も視野に置いて、子どもたちに生きて働く教育課程の創造並びに教師の指導性に対する基本的視点を深める。		
講座の計画	時限	内容	
	1 時限	教育基本法改正では何が問われたか 学校教育法等の改正の動向とその意義、並びに学校改革・教師の実践にとっての意味 「道徳の特別教科化」を含めた国の審議会レベルの論点と今後の実践課題学校の教育課程の教育学的な原理と役割	
	2 時限	いま、学校改革に求められることは何か 子どもの援助者であり学校づくりの主体者としての教師の自立、その可能性と実践の方向性	
	3 時限	教育課程は「人格形成のための諸活動の設計」であること 近年の学習指導要領の改訂経緯とはどのようなものか 子どもたちの学びを創り出す内容構成と教材化への視点（1）	
	4 時限	子どもたちの学びを創り出す内容構成と教材化への視点（2） 2016 年度改訂の方針・内容のポイント 教育課程研究と教育実践の弁証法的な発展と当面の課題 試験（60 分程度）	

修了確認の方法	筆記試験の評価による
成績評価の視点	講義内容のキーワードを理解できているか。自分の言葉で論点を説明できているか。
備考	1 時限は 90 分 テキストは使用しない。参考図書は適宜紹介。資料は適宜配布する。
担当者	折出 健二(人間環境大学 看護学部 教授)